

どこに向かって行くのでしょうか…？

新しい年、2007年が与えられました。この新しい年、わたしたち一人ひとりが今までにもまして、神さまの豊かな恵みと祝福に気づく年でありますように。…神さまからの恵みはすでに与えられているのですから…。

皆さまへの手紙もすっかりご無沙汰してしまいました。わたしもいろんな意味で新しい出発を意識しているところです。まずは、皆さまへの「てがみ」を書くことから始めます。行橋・豊津教会に赴任して5年が終わろうとしています。この「司祭のてがみ」も29通目です。でも、このうち、何通が皆さまの手元に届いて読んでいただいたのでしょうか。

振り返ってみると、この5年間、どれだけの皆さんとお話してきたのでしょうか。幾人の方のお名前を覚えたのでしょうか。ほとんどの方とはまだ挨拶を交わすだけで、あまりお話しもしたことがありませんね。最初の年は初めだけに…結構お名前も覚えていきましたが、年々、記憶力の衰えからだけでなく、新しくお名前を覚えることもしだいに減っていきました。「司祭のてがみ」は少なくとも司祭の考えや今の教会の様子を皆さんに知っていただくとして始めたことでした。また新たな気持ちで再開します。ぜひ読

んでください。

さて、気になっていることがいくつかあります。皆さんもいっしょに考えてくだされば幸いです

根本的な問い

…カトリック信者ってどういうことだろう、どうしてわたしは信者なんだろう、なぜ自分は信者でいるのだろうか…ということを考えたことがあると思います。これは信者として生きていく上で最も根本的な問いだと思います。皆さん、答えはお持ちですか？

この5年間、「司祭のてがみ」や主日の説教で、そのことは問いかけてきたつもりですが…。

教会はいつの時代も、とくに40年前からこのことを信者の皆さんに問い

かけてきました。1962年から65年にかけて開かれた第2バチカン公会議はそのためのものでした。教皇ヨハネ23世の呼びかけで全世界の司教がバチカンに集まり、教会は自分自身に問いかけました。教会はこのままでいいのだろうか。社会に対して、人々に対して…はたして「生きる力」になっているのだろうか、と。教会が現実の世界で生き生きとキリストを証ししているのだろうか、と。その結果、教会は大きく刷新されてきました。



変ることを恐れていませんか？

人は変化を恐れるようです。なぜなら、変化の先にあることが見えないからです。ですから、変ることより、「今」のままに止まることを選びます。しかし、教会が変ることは先の見えないものに向かって行くことではありません。教会が刷新されるということは、常に限りなくイエス・キリストに戻ることなのです。教会は2000年の歴史の中で、さまざまな変化をとげてきました。それは、ときとしてイエス・キリストから離れたことでもありました。歴史が証明しています。先の教皇ヨハネ・パウロ2世は教会が犯した過ちについてはっきりと認め、そのことについて世界に向かって謝罪しました。社会は変化しています。だから教会も変化しなければならない、ということではなく、社会の変化に応じて本来教会は変化していくものなのです。教会が変化するのとは自然なことなのです。

昔はよかった、ということをよく聞きます。たしかに昔はよかった、でしょう。でも、今は昔ではないのです。教会で行われていることで、かつてよかったものが今はよくないこともあるのです。昔よかったとすれば、それは、その時代に合っていたからよかったのです。教会は「昔」に戻りながら刷新され、新たにされ、成長していきます。しかし、教会にとっての「昔」とはイエス・キリストご自身なのです。皆さんはどう思いますか？

型にとらわれていませんか？

型は大切です。ミサなどはまさに型そのものようです。決まったことがたくさんあります。でも、その型に心や気持ちが伴ってなければ、まさに型だけのことで、ほとんど意味はありません。祈りにしてもそうです。教会のさまざまな規定にしてもそうです。心や気持ちが伴ってなければ、型だけ守っても意味はありません。型を守るだけで満足し

ていませんか？ たとえば、主日のミサ参加について。主日のミサ参加は「掟」という点からみれば、確かに重要な守るべき掟のひとつです。でも、掟だからミサに参加するのでしょうか。そうしなければならないから参加するのでしょうか。「ミサに喜んで来る人がいるんですか？ わたしは義務だから、務めだから来ている」と真顔で尋ねられたことがあります。喜んで来る人はたくさんいます。喜んで来る人から見れば、義務だからということでミサに来ている人の気持ちはわからないそうです。皆さんはどう思いますか？

行橋のミサは公式には9時からになっています。でも、あるときから9時5分になりました。教会委員会で、ある人が次のように言ったことがきっかけでした。「高齢の方がいつもバス停から走って来られている。それでもぎりぎり。ミサの時間を少し遅らせることができないか…」それでは5分遅らせて始めることにしよう、ということになりました。この話しを他の教会のある人に言ったところ、その人は「ひとつ早いバスに乗ってもらったらいじゃないか」と言われました。教会委員をされている方の意見でした。わたしは怒りにちかい感情を覚えました。「人は安息日の掟のためにあるのではない。安息日の掟は人のためにある」とイエスは言いました。掟よりも人が大切だということ。…イエスの教えの基準は「愛」なのです。教会で行われることのすべては「愛」に基づくものでなければいけない。皆さんはどう思いますか？

神の望まれることは…

《今日から始めよう、わたしたちにできること》行橋・豊津教会の今年のテーマです。まず、神さまが望まれることは何なのか…を祈りの中でさがしていきましょう。そして聖霊の勧めに従って歩んで行きましょう。「愛」を基準で動くことです。思いやりをもって…